

【目次】

はじめに——本書の概要と構成

第1章 「考える日本史授業」

——高校での実践

【本章を読まれる前に】

第1節 方形周溝墓に埋葬されたのはだれか

——討論授業事始め

第2節 近世アイヌの実像に迫る

——高校・日本史の授業づくりと学力

第3節 民権家桜井静の憲法草案を支持したのはだれか

第4節 生徒にとって楽しく学びがいのある授業を——講演記録

【コラム①】生徒はくっつけるのが好き——加曾利の犬の場合の対処法

第2章 授業者を育てる

——大学「教職課程」の実践

【本章を読まれる前に】

第5節 小学生はいかにして歴史を真剣に考えるようになるのか その1

——山本典人実践に学ぶ

第6節 小学生はいかにして歴史を真剣に考えるようになるのか その2

——石上徳千代実践に学ぶ

第7節 中学生の疑問や発想を活かす歴史の授業とは

——石井建夫実践に学ぶ

第8節 なぜ労働権は尊重されなければならないのか

——河野栄実践に学ぶ

第9節 地域の主権者を育てる

——小林光代実践に学ぶ

第10節 世界史の授業で遊牧社会を教えることの意味はなにか

——棚澤文貴実践に学ぶ

第11節 原発の授業はいかにすべきか

——柴田祥彦実践に学ぶ

第12節 生徒が自分の歴史意識(メタ認知)を検討する歴史の授業
——加藤公明実践に学ぶ

第13節 高校生の国際貢献と地域の教育力
——愛沢伸雄実践に学ぶ

[コラム②] 「言語論的転回」以後の歴史教育

第3章 「歴史総合」「日本史探究」への提言

【本章を読まれる前に】

第14節 歴史教育の危機と新科目・歴史総合

第15節 「問い」から始まり、その刷新(尖鋭化)をはかる歴史の授業

第16節 主体的な学びを実現する授業づくりの挑戦
——「歴史総合」に向けて

第17節 どうする「歴史総合」？ こうする「歴史総合」！
——「歴史総合」の授業サンプル

[コラム③] 今、読みたい社会科・歴史教育の古典
——宮原武夫著『歴史の認識と授業』

第4章 歴史教育から歴史学へ

【本章を読まれる前に】

第18節 歴史教育と歴史学の架橋
——加藤公明・成田龍一对談

第19節 歴史学の成果と歴史教育
——4つの立場

第20節 長年にわたる荘園の教えづらさはなぜ解消しないのか
補論 荘園支配における宗教の果たした役割について

第21節 「鎌倉幕府」という名称はやめませんか
——天皇中心の歴史観を克服する

[コラム④] 教師たちの『岩波講座日本歴史』学習会

終章 歴史認識の構造と発達

——生徒を歴史認識の主体として成長させるには

おわりに——歴史(社会科)を入試科目から外す